

地域リハビリテーション支援センターだより

(神奈川県リハビリテーション支援センター)

2019年9月発行 NO-73

地域リハ支援センター



高次脳機能障害セミナー理解編



令和元年8月24日（土）、高次脳機能障害セミナー理解編を神奈川県総合医療会館にて開催しました。この理解編は支援者の方だけではなく、当事者やご家族もご参加いただけるセミナーとなっており、当日は県内を中心に約150名のご家族や当事者、支援者の方のご来場をいただきました。

毎年このセミナーでは、当事者やご家族の方にご登壇をいただ

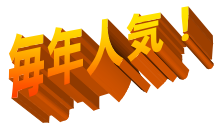
いますが、今年のご家族の立場で松本方哉様に「家族の立場から～男の介護について～」という内容でご講演いただきました。また、神奈川リハビリテーション病院からは、医師、公認心理師、作業療法士、高次脳機能障害相談支援コーディネーターが講演を行いました。

ご登壇いただいた松本様は、フジテレビのニュース番組の解説員、キャスターとしてご活躍されておられましたが、奥様が2007年に倒られ現在は介護に専念されておられます。ご自身の体験を交えながら、男性の立場から介護について鋭い視点で分析し、それを非常にわかりやすく述べてくださいました。男性の場合は、どうしても日常は会社社会中心に回りがちで、家庭を切り盛りしている妻が倒れた時に「仕事の維持」「妻のいない家庭の維持」「妻の介護」の3つが同時に押し寄せたことや、更に男性の立場だと一人で全て引き受けようとしがちになる背景についても述べられていました。最後の質疑応答でも会場からの質問に真摯に答えていただき、その中で語られた「パンドラの底にある希望」というお話は、私たち支援者がエンパワメントされる場面となり印象的でした。そして、協力団体であるNPO法人脳外傷友の会ナナが運営する「スペースナナ」の製品についてのご紹介もしてくださり、松本様の温かいお人柄が感じられる一幕もありました。

今回のセミナーを通して、当事者やご家族にとって住み慣れた地域で生活していくためには「安心して生活できる環境づくり」が欠かせないことを改めて認識しました。今後も県内各地域への支援の普及や啓発活動に一層努めてまいりたいと思います。（中澤 若菜）

（講師） フジテレビ解説委員・キャスター 松本 方哉氏

神奈川リハビリテーション病院 リハビリテーション科 医師 青木 重陽 心理科 山岸 すみ子
作業療法科 清水 里美 総合相談室 永井 喜子



身体を使って基礎を学ぶ研修

からだにやさしい介助入門 一全3回一 7月10日・24日・8月6日開催

今年度も昨年人気が高かった、「からだにやさしい介助入門」を開催しました。午後3時間の3回シリーズで行いました。第一回目は介助の基礎となる『介助者自身の身体の使い方』『対象者への関わり方』について、2回目と3回目は、移乗・移動介助、上衣・下衣の更衣介助の具体的な介助について、実技を交えながら学習しました。どの回においても、少しポイントを押さえて実習で体験することで、普段の業務において何気に行っている介助も楽になることを実感できた研修のようでした。



(講師) 神奈川リハ病院 理学療法科 川瀬 麻理 浅沼 満 作業療法科 村山 珠江 城間 めぐみ
地域リハビリテーション支援センター 小泉 千秋 一木 愛子

PT・OTのための土曜教室 第1回(7月13日)・第2回(8月17日)開催

今年もPT・OTのための土曜教室をスタートしました。1カ月に1回のペースで5か月間3クラスに分かれて、1クラスに1名の担任がつき学習を行います。

第1回目は、臨床場面でなくてはならない移動援助技術について、移乗介助の基礎となる構えを作ることから、介助による移動援助の具体的なポイントまで体験実習を行いながら学習しました。第2回目は実践的評価と治療の臥位から座位で、臥位と座位での姿勢の見かた、起き上がりや寝返り等の誘導方法やリーチの際に身体にみられる反応などについて学習しました。各回の体験実習では、みなさん時間が経つのも忘れて一生懸命取り組む姿がとても印象的でした。



(第1回講師) 神奈川リハビリテーション病院 平田 学
(第2回講師) 神奈川県保健福祉大学 教授 玉垣 努氏
(担任) 神奈川リハ病院 理学療法科 浅井 朋美 作業療法科 吉澤 拓也
地域リハビリテーション支援センター 一木 愛子

多職種から学ぶ研修

脊髄損傷のリハビリテーションの実際 7月31日開催



脊髄損傷者の理解というテーマで、リハ医師、泌尿器科医師、看護師、職能科の作業療法士、ソーシャルワーカーのそれぞれの立場から、医学的な内容から、日頃業務で実践しているケア、復職に向けた支援の実際、脊髄損傷者の相談支援を行う上での特性についてなど様々な内容について学習しました。実際の脊髄損傷者の動画や写真を見ながら学習することで、具体的なイメージがもてる学びの場となった様でした。

(講師) 神奈川リハ病院 リハ科医師 立花 佳枝 泌尿器科医師 田中 克幸 看護部 山田 美和子
職能科 安河内 奈々 相談科 植西 祐香里

(一木 愛子)

各種会議報告等

かながわ地域リハビリテーション支援連絡会の報告

かながわ地域リハビリテーション支援連絡会が、7月17日に横浜市総合リハビリテーションセンターで開催されました。この連絡会は、県内の地域リハに関わる関係施設が情報交換などを行うことにより地域リハの資質の向上をはかる目的で設立されました。現在、横浜、川崎、相模原の各政令市のリハセンター及び関連施設と当支援センターで構成され、各施設が交代しながら年3回連絡会が行われています。

今年度は、地域リハビリテーションの目指すところを通年のテーマとし実施することとなり、第1回の今回は各施設の現状と課題の報告でした。当支援センターからは、専門研修や地域支援事業の活動、専門相談の報告を行いました。また、横浜や川崎の施設からは、最近の活動と課題の報告があり、それぞれ各施設に共通した課題が見受けられました。

次回は具体的な対応についてグループディスカッションを行い、検討していく予定になっています。今後もこの会を通じて、県内のリハセンターの連携を深めていながら、地域リハの推進に寄与できればと考えております。

(小泉 千秋)

関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議

8月23日、埼玉県のさいたま市保健所にて「高次脳機能障害支援普及事業 関東甲信越ブロック・東京ブロック合同会議」が開催されました。この会議では1都9県の行政機関及び支援拠点機関が参加し、近隣都県の支援状況や情報交換を目的に開催されています。今回は国立障害者リハビリテーションセンターより、高次脳機能障害児・者の障害福祉サービス等利用に関する調査報告と、各都県より挙げられた議題に関する情報交換を行いました。

情報交換では介護保険サービス事業所への普及啓発、大学生の復学支援、ピアサポート活動支援、多機関連携のあり方等について活発な意見交換が行われました。拠点の規模、機能も様々なため同一な支援展開は難しいところがありますが、各支援拠点機関の動向も参考にしつつ今後の神奈川県での支援展開について検討していきたいと思っております。

(永井 喜子)

令和元度4～8月リハ専門相談実績(8/18時点)

4～8月(8/18時点)	新規	継続	電話	訪問	来所	メール	4～8月(8/18時点)	訪問	来所
脳性麻痺	7	11	10	7	1	0	補装具・福祉用具機器	9	0
神経・筋疾患	16	37	40	9	0	4	環境整備	2	0
脳血管障害	11	3	13	0	1	0	身体機能評価	2	1
脊髄疾患	3	1	3	0	1	0	ADL指導	0	0
脊髄損傷	4	6	10	0	0	0	訓練プログラム指導	0	0
骨関節疾患	2	2	4	0	0	0	介護指導	3	1
後天性脳損傷(除CVA)	9	2	10	0	1	0	支援内容検討	0	2
知的障害	0	0	0	0	0	0	医療	0	0
内部疾患	0	0	0	0	0	0	その他	0	0
その他(切断・加齢等)	11	2	13	0	0	0			
不明	1	3	4	0	0	0			
合計	64	67	107	16	4	4	合計	16	4

第8回 「不安のコントロール」

Hi、みなさん。残暑厳しい折、いかがお過ごしでしょうか。今回は、社会的行動障害の対応についての話をしました。近年は認知行動療法に基づくアプローチがずいぶん意識をされるようになってきています。今回はこのことと関連して、当院の通院グループ訓練のセッションの一つで議論をしています、不安のコントロールについて御紹介したいと思います。

高次脳機能障害では、就労を考える段階になってくるとある程度の症状の気づきが求められるようになりますが、このプロセスでは不安を伴うことが多く、その対応が必要となります。また、こうした対応は、御家族にも有効になります。当院では、こうした行動のコントロールを「知る、気づく、身につける」という言葉とともに習得いただくよう工夫しています。例えば、不安で言えば、症状について学ぶことは不安を増やすことにもなるということを知って、いただいた上で、以下の「気づく、身につける」を議論してもらいます。

○どうやって気づくかー不安の特徴

- 先を考えると不安になりやすい。
- 頭が疲れている時は、不安を感じやすい。
- 不安を感じている時は、考え過ぎていることが多い。
- 不安を感じている時は、事実に基づかずに考えていることが多い。
- 何もやることがないと、不安になりやすい。(脳はやることがないと勝手に考えることを始めてしまう)

○どうやって身につけるか (不安の対応方法)

- 先を考えない (今やるべきことを考える)。
- 適度な運動をする。趣味、癒し、リラックス。お茶を飲む。
- 考えることをやめるーただ、これをするにはやり方に工夫が必要。一度頭の脇に置くようにするなど。
- 事実を確認する。何が事実かを考える。
- 「不安は脳が作るものである。」このことを理解する。不安は自分の脳がコントロールできるはずである。
- 単純なことをやる (運動、音楽を聴く、など)。脳が勝手に動き出さないようにする。

実際にはこの全てが使用できることは少なく、この中から自分に合った方法を選んで使ってもらっています。御本人、家族、スタッフで共通の言葉を使えるようになるのも大きいですね。セルフコントロールにはいろいろな方法があると思いますが、こうしたプロセスを通して、自分の行動の調整に関心を持っていただけるようにしています。

(See you next time! 青木 重陽)

編集後記：この号を発行する直前に台風が関東に直撃し、各地で被害が出ていると報道されています。日頃から、防災意識を高め準備していても、いざその状況におかれると、なかなか体が動かないものです。それでも考え、体を動かすことを「経験」しておくことが大切だそうです。まだまだ残暑が厳しそうです。脱水や熱中症などに十分注意してください。もうすぐ実りの秋です。次号も元気に話題を提供していきます。

(Be prepared and have no regrets.) (Y・I)

〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516
神奈川県総合リハビリテーション事業団
地域リハビリテーション支援センター
TEL:046-249-2602 FAX:046-249-2601